

## 【授業科目】生理機能検査学Ⅰ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー	教員への授業公開
伊藤 康宏	1年次後期	必修	2	30	講義	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>血液や組織など、身体から採取した検体の検査とともに、臨床検査のもうひとつの柱が人体から直接情報を得る生理機能検査である。生理機能検査学Ⅰでは、臨床検査技師等に関する法律で定められている生理学的検査に必要な基礎理論、測定方法、検査結果の判読および評価法などについて学習し、臨床現場での様々な状況に対応できる知識・技術を習得する。本講義では、一般的な心電図など循環器機能検査、肺機能検査（スパイロメトリ）、その他の呼吸器系機能検査および評価などについて講義する。特に呼吸機能検査は、近年 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の増加で重要視されている。呼吸器系疾患の病態を考えながら、検査結果との関連を考えられる講義を行う。また血液の酸塩基平衡についても、理解を深めたい。基礎から臨床までを詳細に学習し理解するとともに、各種病態と検査法との関連を体系的に学ぶ</p>						
授業の位置づけ	<p>対応するディプロマポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓の機能と構造を説明できる。</li> <li>2. 心電図の原理、誘導法を説明できる。</li> <li>3. 洞調律、異常心電図を説明できる。</li> <li>4. 呼吸器の構造と機能を説明できる。</li> <li>5. 呼吸機能検査を説明できる。</li> <li>6. 酸塩基平衡を説明できる。</li> </ol>						
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>事前に計画されている単元について予習を行っておくこと。範囲内の教科書は読んでおく。分からない用語については調べておくこと。 講義内容で不明な点は、講義中もしくは講義終了直後に、明確にするよう努める事。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 循環機能—心電図検査 心臓の構造と機能</li> <li>第2回 誘導法と正常心電図</li> <li>第3回 異常心電図</li> <li>第4回 異常心電図（虚血性心疾患）</li> <li>第5回 異常心電図（不整脈心電図波形）</li> <li>第6回 異常心電図（異所性調律）</li> <li>第7回 心音図・脈波検査 心同期</li> <li>第8回 負荷心電図、ホルター心電図、HIS 束心電図</li> <li>第9回 心電図のアーチファクトについて</li> <li>第10回 呼吸機能—肺の構造と機能</li> <li>第11回 スパイログラムの測定法</li> <li>第12回 フローボリューム曲線の測定法</li> <li>第13回 換気機能障害の分類 機能的残気量の測定法と原理、臨床的意義</li> <li>第14回 血液ガス分析</li> <li>第15回 酸塩基平衡について</li> </ol>					<p>全て 伊藤</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 50% 講義ごとのレポート 50% 学期末試験</p>						
教科書	<p>臨床検査学講座 生理機能検査学 大久保喜朗著 (医歯薬出版株式会社)</p>			参考書等	<p>病気がみえる vol.2.4 循環器、呼吸器 (メディックメディア)</p>		
学生へのメッセージ	<p>患者さんに直接接する検査である生理機能検査は、近年需要が増大している。臨床現場の話も含めながら講義を進めていきます。積極的に学んでください。</p>						